

フランス装の楽しみ。

本展覧会のカタログは、「フランス装（仮綴じ）」という装丁方法を採用しています。

フランス装とは、20世紀中頃まで主にフランスで一般的だった本の販売形態で、ページに傷をつけること無く解体する事が可能です。購入者は自分好みの表紙に装丁したり、別々の本を1冊にまとめて綴じ直したりと、“自分だけの1冊”を作る楽しみがあります。

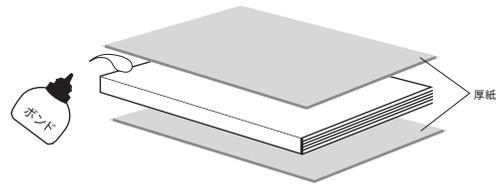
みなさんも、自分好みの表紙を付けたり、今後開催予定の第Ⅱ期・第Ⅲ期展覧会カタログと合わせて再編集したり、白い紙と一緒に綴じて研究ノートにしてみるのはいかがでしょうか。

南京装 風

(略式の説明です)

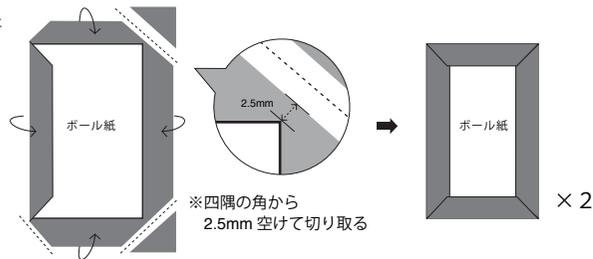
- ① 表紙・裏表紙に
厚紙 (1mm) を木工ボンドで貼る。

※紙の目に注意。
以降の作業はすべて、紙の目(繊維方向)
が本の長辺と平行になるようにそろえる。



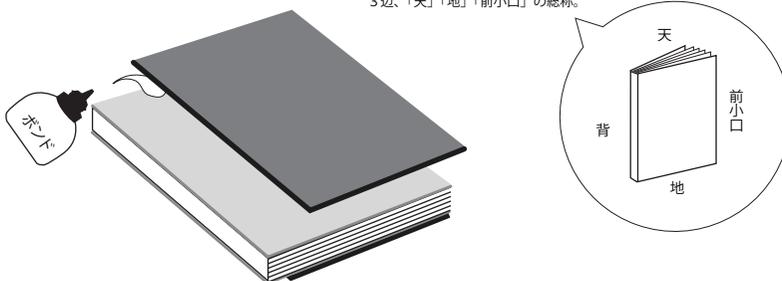
- ② 本より横幅が少し短いボール紙 (2mm) にボンドを塗り、好みの紙や製本クロスで
貼り包んだものを 2 枚用意する。

※紙の目に注意。
※紙の四隅を切ると
貼り易い。



- ③ 用意した 2 枚を、小口に揃えて表紙・裏表紙にボンドで貼る。

※小口…本の側面 4 辺中、「背」以外の
3 辺、「天」「地」「前小口」の総称。



- ④ 平らな場所で重しをして 1~3 日乾燥させる。

